

第三章 その他

第1節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施していた。

しかし、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止となった。

2 研究及び外部での講演等の報告

【研究報告】

タイトル	コロナ禍におけるオンライン等を活用した食の安全・安心に係るリスクコミュニケーションについて
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	衛生課 ○井上聡美、大抜真吾、石田和久、折目朋子
<p><要旨></p> <p>コロナ禍において人と人との接触を控えることが求められる局面が増える中、令和 2 年度、令和 3 年度にオンライン等を活用して実施したシンポジウム等の食の安全・安心にかかるリスクコミュニケーションについて報告した。</p>	

タイトル	「新型コロナウイルス感染症の発生時対応について」 ～感染拡大期における業務体制についての振り返り～
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○杉本朋子、西川幸恵、山田由香里、大泉聡志、新宮健司、白子知美、岡嶋一郎、中村由紀子
<p><要旨></p> <p>本市の新型コロナウイルス感染症の対応については、保健所にとどまらず全庁的な応援体制をもって対応を続けている。感染拡大期における保健所の実務体制や業務の効率化などといった業務内容を振り返り、改善点の評価や残された今後の課題について考察した。市民の健康を守るために必要な対策を推進していくことが必要である。</p>	

タイトル	新型コロナウイルス感染症まん延時における健康教育・健康相談の取り組み報告
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	健康推進課 ○藤本亜由美
<p><要旨></p> <p>当課及びすこやか相談所では、対面での健康教育、健康相談事業に取り組んできたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、従来の保健活動が困難となった。そこで、オンラインを活用した啓発活動や、予約制の相談事業を行った。オンラインの健康教育は感染拡大時でも開催できるが、参加者同士の繋がりを求めている場合や、体験型により得られる効果は期待できなかった。教室の目的に応じた開催方法の検討が必要である。健康相談は予約制にすることで事前に来所者を把握できるため、限られた時間で悩みに寄り添う相談対応が行えた。参加できる場や相談できる場が縮小したことにより孤立や不安が増強し、子育てに悩む保護者の相談が増えた。感染防止対策を講じつつオンラインの活用や電話相談の工夫等により、各世代における健康な生活に課題をもつ市民に対して、適時対応できるよう支援に取り組んでいきたい。</p>	

タイトル	子ども発達相談センターにおける保護者支援について～保護者学習会の実践報告～
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	子ども発達相談センター ○高田沙織、藤田真由美、龍田直子
<p><要旨></p> <p>子ども発達相談センターで実施している「保護者学習会」について、その概要と、平成 27 年度～令和 2 年度までの 6 年間の実績、参加した保護者 194 名へのアンケート結果も添えて報告した。</p> <p>アンケート結果からは保護者の孤独感軽減やより良い親子関係の構築に寄与したことが伺えた。また、もっと交流したいとのニーズもあり、その後の「全体交流会」も企画しフォローアップしている。今後も安定して開催していくためには職員体制の充実と、セルフヘルプグループ化が課題であると考えている。</p>	

タイトル	大津市医療安全支援センターにおける医療相談の現状
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	医療安全支援センター ○今井明美、木村俊紀、村田俊浩、古川久文、中村由紀子
<p><要旨></p> <p>医療法の改正により、医療に関する苦情、相談等に対応し医療機関に助言等を行う医療安全支援センターが法的に位置づけられた。本市は平成 27 年 4 月に、大津市医療安全支援センターを保健所に設置した。当センターにおけるこれまでの医療相談の現状について報告した。</p>	

タイトル	大津市在宅医療整備における訪問看護ステーション体制強化事業の成果
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	地域医療政策課 ○高田直美、金村亜矢、龍池和隆、荒木浩一、中村由紀子
<p><要旨></p> <p>本市では、市民が安心して在宅療養・在宅看取りを選択できるよう在宅医療提供体制の整備を進めている。</p> <p>今後増加する医療ニーズの高い在宅療養者に対応するため、訪問看護ステーション体制強化事業に取り組んだので、その結果を報告した。</p>	

タイトル	難病患者の災害に対する意識調査～指定難病申請時調査より（第 2 報）～
報告学会名	第 52 回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○野村健太、石橋みゆき、中川拓也、梅染那美、吉田未佳、武田恵、井上知加、平田浩二、新宮健司、白子知美、岡嶋一郎、中村由紀子
<p><要旨></p> <p>令和 2 年度に特定医療費受給者証の交付申請をした 3,239 人に質問紙を配布した結果、災害の備えに関する意識は避難場所を知らない患者で特に低いこと、医療機器使用者の方が災害の備えができていないことが課題であるとわかった。今後も医療機器使用者を中心に個別避難計画作成も含めた災害対策を進めていく。</p>	

【講演等報告】

タイトル	発達障害について
講演会・研修会名	大津ロータリークラブゲストスピーチ
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	大津ロータリークラブ会員
年月日	令和3年5月11日
主催者	大津ロータリークラブ
<p><要旨></p> <p>発達障害についての概論、発達障害者の就労・雇用における、職場の理解と対応について講演した。</p>	

タイトル	地域における発達相談 ～大津市子ども発達相談センターの実践より～
講演会・研修会名	令和3年滋賀小児科医会 第1回定期学術講演会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	滋賀小児科医会会員 50人
年月日	令和3年6月13日
主催者	滋賀小児科医会
<p><要旨></p> <p>子ども発達相談センターの概要、実績からみえる、地域における発達支援や医療との連携のあり方について講演した。</p>	

タイトル	実践報告「地域でつなぐ、地域でつながる～全ての子どもが育ち、子育てしやすい地域づくりに向けて～」(滋賀県より) 母子保健の立場から
講演会・研修会名	全国発達支援通園事業連絡協議会 第24回全国大会(滋賀大会)
発表者名	健康推進課 土蔵百恵
対象者及び参加人数	障害児通所支援関係者、母子保健・保育・子育て支援・教育関係者、保護者行政担当者など 約300名
年月日	令和3年10月23日
主催者	全国発達支援通園事業連絡協議会 全通連第24回全国大会実行委員会
<p><要旨></p> <p>昨今の社会情勢に加えコロナ禍に伴う子育て環境の変化を踏まえ、妊娠期から切れ目なく安心して子育てができるための取り組みについて母子保健の立場から報告した。</p>	

タイトル	発達障害と不登校、ゲーム依存
講演会・研修会名	令和3年度発達障害児支援研修会（WEB開催）
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
対象者及び参加人数	大津市医師会会員 20人
年月日	令和4年1月15日
主催者	公益社団法人 大津市医師会
<p><要旨></p> <p>社会的問題として取り上げられることの多い、不登校とゲーム関連問題について整理し、両者と発達障害との関係性について講演した。</p>	